

総務まちづくり委員会会議録

平成30年2月16日(金)
氷見市庁舎委員会室
開会 午前10時00分
閉会 午前11時50分

- 1 案 件 平成30年度予算案のうち総務まちづくり委員会の所管にかかるもの
- 2 出席委員 6名
萩野委員長、越田副委員長、松原委員、阿字野委員、谷口委員、嶋田委員
- 3 委員外議員 萩山副議長、稲積議員、濱井議員、萬谷議員、正保議員、竹岸議員、上坊寺議員、山本議員、積良議員、椿原議員
- 4 職務のため出席した事務局職員 坂本事務局長、新井事務局次長
- 5 説明のため出席した者の職、氏名
林市長、前辻副市長、國本代表監査委員、藤澤市長政策・都市経営戦略部長、山口まちづくり推進部長（漁業文化推進室長）、浅海都市・まちづくり政策監、桶元まちづくり推進部参事、高橋総務部長、澤会計管理者、岡田観光交流・女性応援課長、神代都市計画課長、鈴木海浜植物園・花みどり推進室長、川淵総務課長、京田財務課長、大門税務課長、山口監査委員事務局長ほか関係職員
- 6 傍 聴 人 1 人
- 7 経過及び結果
 - ・萩野委員長が開会を宣告し、市長挨拶の後、議事を進行した。
 - ・当局の説明を受け質疑応答を行った結果、説明を了承することとした（主な質疑応答は別紙のとおり）。

氷見市議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

平成30年2月16日

氷見市議会総務まちづくり委員長

萩野信悟

主な質疑応答

観光交流・女性応援課 阿字野委員	25 観光戦略事業費について。具体的な取組内容とそれに対する見込みをどのように考えているか。また、観光広報強化事業費と内容の違いは。
岡田課長	<p>現在策定している観光振興ビジョンの中で宿泊者数、消費額、滞在時間等数年かけて達成すべき目標値は設定している。</p> <p>本業費には、広域観光連携関係の様々な負担金、出向宣伝に要する経費等を計上しており、中央のテレビ番組等マスメディアの活用の特化している点が観光広報強化事業費との大きな違いである。今年のプリシーズンには、NHKの海外放送用に取り上げられるなど少しずつ成果が出てきている。</p>
谷口委員	4 縁結び推進事業費について。この縁結び推進事業に関わっている方には、いろいろご苦労があると推察するが、関わっている方々の意見を出し合う場などを設けているか。
岡田課長	縁結びのおせっかいさんは、これまでバラバラに活動してこられたが、昨年8月、自主的に「氷見縁結びの会」が結成され、定例会にて課題等が話し合われている。また、高岡市などとも意見交換が行われている。
谷口委員	これらの方々には、ずっと関わりをもってそのご苦労に答えていくとともに、積極的な対応をお願いしたい。(要望)
松原委員	33 団体旅行誘致・新高岡駅利用促進事業費について。都市計画課が所管していた29年度からの変更点を含め、中身の説明をお願いしたい。
岡田課長	<p>本事業は、新高岡駅、そして北陸新幹線や氷見線の利用を促進することを主旨とし、これまでは地元の人に如何に利用してもらうかとの観点で交通部門が担当していたが、新年度は如何に人を呼び込むかとの観光の視点に立って新高岡駅の利用を促進しようとするものである。</p> <p>富山県、高岡市、JR西日本と大手旅行会社6社による新高岡駅利用促進プロジェクトが発足しているが、本市も加わり、今後、旅行商品づくりを一緒にやっっていこうというもの。具体的には送客手数料を一人当たり概ね1千円助成するものである。氷見の場合は、閑散期の宿泊に対して、旅行会社にインセンティブを提示し、送客を促進したい狙いがある。</p>
越田委員	25 観光戦略事業費について。先の12月定例会の観光宣伝事業の補正において、神戸市とは世界一のクリスマスツリープロジェクトを契機として、継続して交流を深めていきたいとの答弁であったが、新年度の観光戦略事業費の中に神戸市との交流費用は含まれているか。

岡田課長	<p>神戸市限定の予算はないが、観光広報強化事業費において、新たな縁ができた都市との交流促進費用を計上している。</p> <p>今月 22 日、神戸市から 20 人程度来氷する予定であり、今後のことも相談したいと考えている。</p>
越田委員	<p>昨年 9 月の定例会において東海北陸自動車道などの周年事業を活用した観光宣伝について答弁があったが、首都圏や関西圏同様に長野・岐阜県など近隣の海なし県への観光宣伝も観光戦略事業費に見込んでいるか。</p>
岡田課長	<p>今年度も海なし県に対して積極的に働きかけをしている。</p> <p>NEXCOによれば、安房峠の周年事業は既に終了しているが、東海北陸自動車道の 10 周年事業については 7 月予定とされており、市にも案内がある。具体的な内容が分かり次第必要に応じて 6 月補正で対応したい。</p>
越田委員	<p>32 インバウンド対策事業費について。市長は、インバウンド対策と国内交流のどちらを優先するか。</p>
林市長	<p>どちらも重視している。姉妹都市交流も踏まえながら海なし県との交流をしっかりと進めていくとともに、インバウンド対策も県西部 6 市の連携の中でしっかりと対応していきたい。</p>
越田委員	<p>インバウンド関係各団体と連携して受入れ態勢を整えてほしい。(要望)</p> <p>16 観光施設維持管理事業費について。観光案内板の改修の中に魚々座の看板の改修は含まれるか。</p>
岡田課長	<p>今回は氷見南インターチェンジの看板改修費のみである。</p> <p>8 箇所ある魚々座関連の看板を含め、台帳の全 47 箇所の看板にかかる現地調査をまず進め、その調査結果を基に廃止、改修、新設等を見極め計画的に実施していくこととしている。</p>
越田委員	<p>本事業の県支出金 1,309 千円には、今の看板改修に係る分は含まれていないという理解でよいか。</p>
岡田課長	<p>この県支出金は公園にかかる補助であり、看板とは別である。</p>
嶋田委員	<p>7 浅野総一郎翁ゆかりの都市等交流推進事業費について。交流している都市とその交流内容を確認したい。</p>
岡田課長	<p>ブリシーズンに実施する川崎市、横浜市での寒ブリ交流会が主な交流内容である。</p>

嶋田委員	浅野総一郎翁ゆかりの企業が何社ほどあるか把握しているか。
岡田課長	名簿は、川崎、横浜市からいただいている。横浜の場合は、来賓で概ね180名ほどであり、ほぼ企業関係の方であったと記憶している。
嶋田委員	川崎市長からは、関連企業とは言うものの、氷見へ訪問したことがない企業がほとんどであると同ったが、将来的な企業誘致等も念頭に置き、氷見の地で関連企業との交流を図るという視点を持って交流を進めてはどうか。
林市長	関連企業の皆さんには、浅野総一郎の故郷を訪ねるツアーの検討をお願いするなど、折に触れて氷見の宣伝に努め来氷を呼びかけており、今後もPRに努めていく。
都市計画課 松原委員	3 NPOバス運営推進事業費 について。本事業の補助金は、対象の4団体に均等に補助するものか。その補助の内容は。
神代課長	現在、各団体に運営費の補助をしている。どの団体においてもバスの修繕費が運営を圧迫している状況にあるが、修繕費すべてを補填するものではなく、年間50万円を超えた分について補助するものである。
松原委員	4 生活路線バス維持対策事業費 について。実施するアンケート調査の内容は。
神代課長	対象地区としては、現在バスが走行していない十二町、神代、園地区の方々を対象としており、NPOバスを主眼において意向を伺う予定としている。
松原委員	NPOバスを含めた路線バス導入の要望が多い場合は、NPOバスの新設等何らかの対応をするということか。
神代課長	地区で運営する方向で話が盛り上がるのであれば、当然、NPOバスとしての同様の支援を行う。
松原委員	NPOバスを実施している地区間を繋ぐ方策を検討してはどうか。
神代課長	現段階では、会員しかバスに乗車できないという法律の壁がある。NPOバスの相互乗り入れが可能になるような方策について、国とも相談しながら検討していきたい。
谷口委員	6 北陸新幹線2次交通運行事業費 について。わくライナーの利用客が

<p>神代課長</p> <p>谷口委員</p> <p>阿字野委員</p> <p>神代課長</p>	<p>少ないようだが、運行実態について、出資している団体はどのように評価しているか。また、対策等も含めた検討を行っているか。</p> <p>わくライナーがあくまでも試行的に始まったこともあり、旅行会社が商品への組み込みを躊躇しているものと考えている。もっと旅行商品に組み込んでいただくよう、補助している高岡市、七尾市、富山県と一緒にPR活動を行っている。</p> <p>観光客に対する周知、宣伝が進んでいない感がある。700万円という高額な負担金額であることも踏まえ、富山県や高岡市等ともよく協議の上対策をお願いしたい。(要望)</p> <p>5 城端・氷見線地域公共交通総合連携事業費負担金について。具体的な取組みの内容と今後の見通しは。</p> <p>城端・氷見線活性化推進協議会において、べるもんたへの支援、路線乗降者満足度調査、ICカード設置に関する検討や直通化の検討などに取り組んでいる事業であり、城端・氷見線沿線地域公共交通網形成計画に基づいて事業を進めている。</p> <p>直通化の検討については、今後、有識者の助言をいただきながら、JR西日本と協議する予定である。</p>
<p>海浜植物園・花みどり推進室 越田委員</p> <p>高橋総務部長</p> <p>越田委員</p> <p>高橋総務部長</p> <p>松原委員</p>	<p>1 木育推進事業費について。以前から本事業の農林部局での実施を求めてきたが、未だに当室で実施されている理由は。</p> <p>海浜植物園を木育の拠点としてリニューアルしたいとの思いや木育キャラバンを2年連続で実施している意味合いから植物園を事業担当としている。氷見産材の活用であれば、当然農林畜産課で担当すべきと考えるが、本事業は、拠点性という観点から当室が担当しているものと思っている。</p> <p>海浜植物園の条例は、木育について一言も触れてはいない。事業として農林畜産課に一本化し、イベントの場所として植物園を使用する実施方法でもよいのではないか。</p> <p>広い意味では、花みどり推進室ということで合致しないことはないと思うが、人員配置、組織のあり方、条例規則等にも関連することから、少し考えさせていただきたい。</p> <p>4 花と緑の地域づくり事業費について。商店街のプランター等の更新で約350万円事業費が増えているが、これは、地域の人ではなく全て業者</p>

<p>鈴木室長</p> <p>松原委員</p>	<p>が行うのか。</p> <p>地域の方々と協議した上で、入れ替えは業者が実施する。</p> <p>継続して維持するためには、地域の方にも手伝っていただかないと難しい面があるので、その点配慮して実施していただきたい。(要望)</p>
<p>総務課及び選挙管理委員会 松原委員</p> <p>総務課長</p>	<p>10 人材育成事業費について。現在、青年会議所へは何名出向しているか。</p> <p>1 名出向している。</p>